

徳島県立文学書道館
文学特別展

太宰治

創作の舞台裏



太宰治(1941年11月 東京・三鷹の自宅付近にて)

2024年8月10日(土)～9月23日(月・振休)

○開館時間／9：30～17：00 休館日／月曜日(8/12、9/23 は開館。9/16 は開館し、翌9/17 は閉館)

○観覧料／一般 520円(410円) 高校・大学生 360円(290円) 小・中学生 260円(200円)

※()内は20人以上の団体割引料金。高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。小・中・高校生は、土・日・祝日と夏休み期間は無料。

○会場／徳島県立文学書道館 1階特別展示室 3階収蔵展示室

○〒770-0807 徳島市中前川町2丁目22-1 TEL 088-625-7485 FAX 088-625-7540

○ホームページ <http://www.bungakushodo.jp> メールアドレス kotonoha@bungakushodo.jp

主催／徳島県立文学書道館 特別協力／日本近代文学館 編集／安藤 宏 後援／徳島新聞社、四国放送、NHK徳島放送局

作家・太宰治（1909—48年）は、自殺未遂や薬物中毒を繰り返すなど自らも苦悩しながら数々の名作を残しました。今回の特別展には、「人間失格」、「斜陽」の原稿など、さまざまな資料を展示し、太宰治の文学がどのように生み出されていったのかを紹介します。

青森の生家・津島家についての資料や学生時代の同人誌、授業のノートなどから太宰のルーツに迫るとともに、21歳の時の心中事件の資料も展示。また、草稿や書き直し原稿、太宰作品に影響を与えた資料などを通して、作品発表までの変遷をたどります。晩年の代表作「人間失格」と「斜陽」は、草稿と完成稿を比較し、構想からどのように変化して作品になったかを見ます。

さらに徳島県の剣山を舞台に鬼の前で阿波踊りを披露する「瘤取り」など「お伽草紙」の完全原稿（2019年初公開）も展示します。



英語の教科書に太宰が描いた落書き



「人間失格」原稿



『斜陽』(1947年 新潮社)



『斜陽』原稿



太宰治(1935年 千葉県・船橋にて)

関連イベント

・講演会「太宰作品における語りの宛先」

8月25日(日) 14:00～15:30

講師/滝口悠生(芥川賞作家)

・朗読会「太宰作品を読む」

9月7日(土) 14:00～15:00

出演/岩瀬弥永子(元・四国放送アナウンサー)

※定員=いずれも150人(申込多数の場合は抽選)

※申込方法=はがき・FAX・メールのいずれかに「太宰治講演会(または朗読会)〇月〇日希望」と明記の上、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を記入し、お申し込みください。当館1階受付でも申し込みます。



『お伽草紙』の初版本
(1945年 岩波書店)



『お伽草紙』の「瘤取り」の原稿

交通アクセス(JR徳島駅から)

■徒歩(約15分)

JR徳島駅西側のポッポ街を抜けて右折。踏切と助任川を越え、3つ目の信号を右折して約300m(徳島中学校東隣)。

■バス

【徳島市営バス】7番乗り場「川内循環線(右回り)」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩で約5分。

【徳島バス】15番乗り場「前川経由」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩で約5分。

■タクシー・自動車(約5分)

国道192号線、藍場町交差点を北進。助任川を越え、4つ目の信号を右折して約300m。

■高速道路から

徳島インターチェンジから車で約15分。

■駐車場

当館北側・南側にあります(62台、大型バス2台)。

